

公園の現状と課題・公園づくりの考え方

公園の現状と課題・公園づくりの考え方

(1) 公園の現状と課題の整理

求められる視点

「新たな時代における都市公園の意義・役割」
 （都市公園の柔軟なあり方に関する検討会提言）

- ① 持続可能な都市を支えるグリーンインフラ
- ② 心豊かな生活を支えるサードプレイス
- ③ 人と人のリアルな交流、イノベーションを生み出す場
- ④ 社会課題解決に向けた活動実践の場
- ⑤ 機動的なまちづくりの核

⇒ 「使われ活きる公園」

「上位・関連計画における公園の位置づけ」

- 地域間のバランスに配慮した適正配置、適切な整備
- 地域の特性や区民のニーズを反映
- 地区ごとの公園を活かした方針
- 民間活力の導入
- CITY IN THE GREENの実現に向けた4つの公園・緑地の整備・管理方針
- 関連分野における公園利活用への推進に向けた、機能・役割の向上・拡充

「利用者ニーズ・利用実態」

- ボール遊び、乳幼児の遊び・学びの場としての利用、飲食機能・イベントなどの要望、インクルーシブな公園への期待が高いが、満たせている区立公園はごく一部に限られている。
- 利用者からは、にぎわいだけでなく、静かな空間としての機能も求められている。

公園の現状と特徴

「まちと公園」

- 連携・活用が期待できる地理的特徴や歴史文化資源との親和性が高い公園、公共交通機関に隣接するアクセス性の良い公園、文化センター等の公共施設に隣接する公園等、まちづくりとあわせた、地域や立地の特徴を考慮すべき公園が複数存在する。

「整備状況」

- 区内には親水公園や海上公園など、まちの特徴である水辺を活かした公園が多く整備されている。
- 区内には大規模な都立公園や海上公園が整備されており、面積・面的な配置の視点では充足している。
- 地区ごとに整備面積や公園種別の偏りが見られ、本来の公園種別とは異なる役割を担っている公園が見受けられる。
- 区立公園の大半は面積の限られた住区基幹公園であり、一つの公園が担える役割には限りがある。
- 区内には様々な機能や特徴のある公園が整備されているが、その配置については偏りがある。

「管理・運営状況」

- 区立公園を活動場所とした、NPO法人やボランティア団体、地元企業、地域住民などの活動が多く行われており、公園の活用に対する積極的な意見も多い。
- 一部の区立公園で指定管理者制度やPark-PFI事業などの民間活力の導入が進められているが、ほとんどの区立公園が業務委託による管理となっており、対象公園の増加や多様化するニーズに対応するために、業務委託の件数が増えている。
- 区立公園の多くが、整備後35年以上が経過しており、補修・改修等を行っているものの、施設や設備の老朽化が進んでおり、区民などから寄せられる意見や陳情も多い。
- 近年の気候変動によって植栽等の生育環境にも変化がでており、維持管理の手間が増加傾向にある。
- 区民などから寄せられる意見や陳情は、ボール利用やスケートボード、喫煙、騒音など、利用者のマナーに関する意見が多く、同一の公園で相反するニーズが求められているケースも見受けられる。

「利用者ニーズ・利用実態」

- 区内の公園は、遊び、健康づくりから、自然や癒し・リラックスまで、動的な活動と静的な活動の両面において利用され、評価されている。
- 江東区の公園には多様な賑わいの要素があり、同一の公園でも休日と平日、時間帯、年齢層などで異なる賑わいもみられる。
- 地域のコミュニティ醸成の場としての役割をになっている公園もみられる。
- 隣接公園同士の機能の重複や個性の少なさによって利用・活用しきれていない公園が見受けられる。

目指すべき公園のイメージ

公園

持続可能な都市を支えるグリーンインフラ

誰もが利用できる身近な公共空間

公園のポテンシャルを最大限に発揮させ、江東区における多様な課題に対して多面的な対応を可能とする

『まちとつながり（公園中心のまちづくり）使われ活きる公園へ』
 『地域の公園がそれぞれ個性を発揮し、「楽しい」「訪れたい」と感じられる魅力ある公園へ』

「使い方」、「活かし方」、「行きたくなる魅力」は一様ではない。

「動的な活動」

こどもと遊ぶ、ボール遊び、イベント・行事への参加 など

「静的な活動」

休憩・休息、移動、なんとなく など

小規模な公園でのすみわけや組み合わせには限界がある。

そこで、地域の特性やニーズを踏まえ、一定範囲の公園を一つの塊「公園群」として「使い方」、「活かし方」、「行きたくなる魅力」を整理する。

整理に当たっては、アンケート調査の属性別分析や地域別公園利用者ニーズ調査（令和8年度実施）を踏まえることとする。

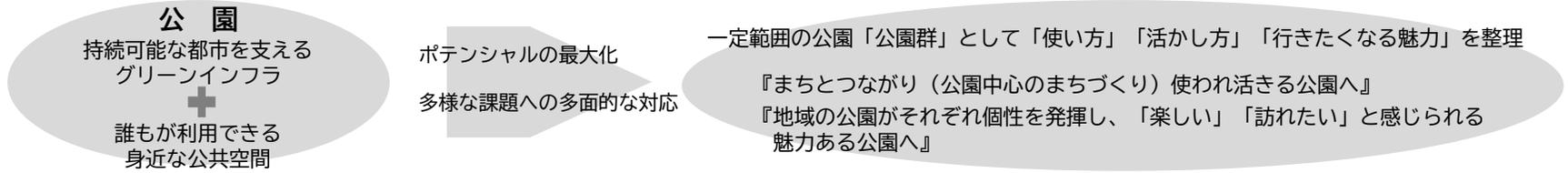
課題

- 公園の魅力向上とまちへの波及
- 機能分担や利用ルールづくりによるニーズへの対応
- グリーンインフラとしての公園機能の強化
- 多様な主体との協働による持続可能な公園づくり

公園の現状と課題・公園づくりの考え方

(2) マスタープランの体系イメージ

<目指すべき公園のイメージ>



<課題>



<基本方針>

※江東区みどりの基本計画に基づく



<施策>

※ハード・ソフト両面から展開

今後の公園タイプ(案)

- ① **にぎわいタイプ:** 民間との連携も積極的に導入し魅力あるサービスの提供により区内外から多くの利用者を集める
- ② **地域の顔タイプ:** 多様な機能で様々な利用を受け止め地域の交流の舞台となる
- ③ **機能特化タイプ:** 単機能だが複数の公園群で地域の暮らしの質を高める

施策のイメージ（他自治体事例）

■ 整備の方策

- ・ 地域の歴史をいかした特色ある整備（千代田区）
- ・ 区を代表する公園は、区に訪れる人の目的地となるような多機能空間を整備（渋谷区）
- ・ 区の地域性を発揮する、ここにしかない景観や文化、アクティビティが体験できる空間を整備（渋谷区）
- ・ 区内の企業などと連携して、先端技術を活用したエンタテインメント空間を整備（渋谷区）
- ・ 季節の花やみどり、歴史・文化資源、景観などの地域資源と公園をつなぎ、回遊して楽しめる公園づくり（北区）

■ 管理運営の方策

- ・ 整備・運営への民間活力の導入を検討
- ・ 民間主導による公園的性格を持ったオープンスペースの創出・活用を支援（港区）

関連の深い公園タイプ

- ① にぎわいタイプ
- ② 地域の顔タイプ

施策のイメージ（他自治体事例）

■ 整備の方策

- ・ すべての人が利用できるインクルーシブな公園の整備（墨田区）
- ・ ボール遊び、スケボーなどができる場所を拡充（千代田区）
- ・ 昼・夜など時間に応じて用途を分け、多様な世代が思い思いに楽しめる空間づくり（千代田区）
- ・ 多言語対応の案内板を設置し、誰でもわかる公園利用ルールの周知（北区）
- ・ 公園を地域コミュニティの拠点とするため、コミュニティカフェを整備するなど、地域住民の方々のため場づくり（渋谷区）

■ 管理運営の方策

- ・ ボール遊びや花火利用など新たな公園ルールの運用（杉並区）
- ・ 地区ごとに指定管理者制度を導入し、包括的な管理体制に再編（北区）
- ・ より身近な公園活用のために、公園占用電子化システムの導入（江戸川区）

関連の深い公園タイプ

- ② 地域の顔タイプ
- ③ 機能特化タイプ

施策のイメージ（他自治体事例）

■ 整備の方策

- ・ グリーンインフラなど、自然環境が持つ機能を活用した公園づくり（千代田区）
- ・ 自然の豊かさにふれることができ、ビオトープの形成など生物多様性に配慮（千代田区）
- ・ 公園内や周辺にドライ型ミストなどを設置し、クールスポットを創出（千代田区）
- ・ 一時集合場所となっている公園に防災機能を有する設備を設置（墨田区）
- ・ 雨水の流出抑制に配慮した地下浸透施設などの整備（北区）

■ 管理運営の方策

- ・ 植物の維持管理に気軽に参加できる制度づくりを行い、地域の方々のみどりに関わる活動ができる場を提供（渋谷区）
- ・ 子どもたちが植物や生物に触れて自然のメカニズムなどを学ぶ機会になるようなプログラムを提供（渋谷区）

関連の深い公園タイプ

- ① にぎわいタイプ
- ② 地域の顔タイプ
- ③ 機能特化タイプ

施策のイメージ（他自治体事例）

■ 整備の方策

- ・ 子どもや保護者をはじめとした地域の意見を取り入れ、子育て・コミュニティの核となる公園づくり（千代田区）
- ・ 公園に隣接する施設や道路との一体的な再整備（千代田区）

■ 管理運営の方策

- ・ 地域活動への参画しやすい仕組みづくり（千代田区）
- ・ 公園に隣接する施設と連携したイベントの推進（千代田区）
- ・ 公園整備段階からの協働の推進（港区）
- ・ 公園の魅力を発信する「公園ガイドブック」などの作成による情報発信（北区）
- ・ 区民が気軽公園の運営や維持管理に参加できる「公園管理サポーター」制度の導入検討（北区）

関連の深い公園タイプ

- ① にぎわいタイプ
- ② 地域の顔タイプ
- ③ 機能特化タイプ

<地区別方針>

⇒ 地域の特徴や課題、利用者ニーズを踏まえて地区ごとに施策を展開

公園の現状と課題・公園づくりの考え方

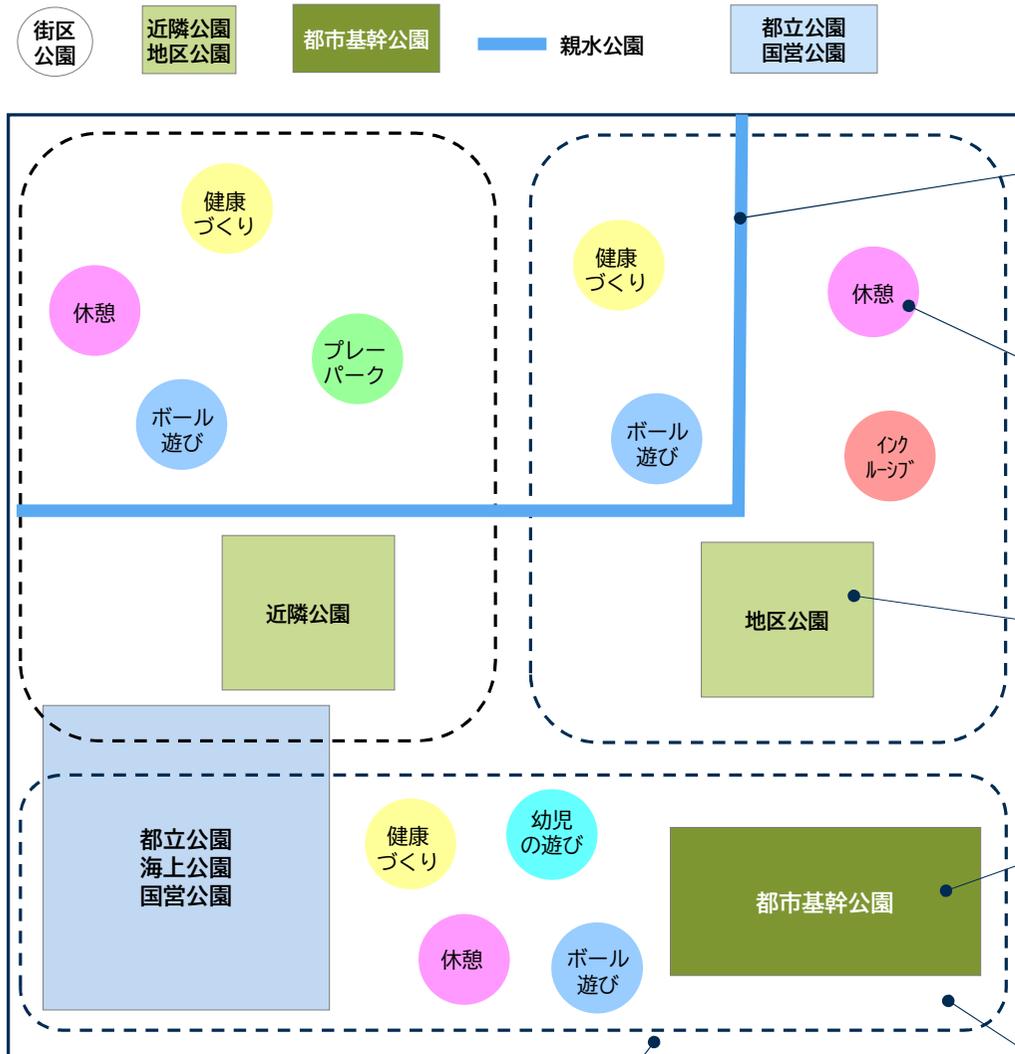
(3) 地区別公園、親水公園等の特徴と課題

地区等	地区別取組方針 (みどりの基本計画)	特徴	課題
城東北部地区	水辺のスポーツが身近に楽しめる魅力あるまち	<ul style="list-style-type: none"> 2つの都立公園のほか、住区基幹の公園が多く整備されている。一人当たりの公園面積は3.25㎡となっている。 親水公園が多く、水遊びのできる公園が複数整備されている。 週に1回以上公園を利用している住民が、他地区と比較して多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 都立公園が多く立地していることから、これらの公園との連携を図りながら、区立公園の魅力を高めていく必要がある。 小規模な区立公園が多く整備されていることから、機能分担を図り、公園の個性を出していく必要がある。
城東南部地区	くらしにみどりが溶け込む触れ合いと活気のあるまち	<ul style="list-style-type: none"> 総合公園や運動公園など大規模な区立公園が整備されており、区立公園の合計面積としては、区内で最も大きい。一人当たりの公園面積は2.92㎡となっている。 高齢化率が他地区と比較して高く、将来人口は横ばい～やや減少が推計されている 	<ul style="list-style-type: none"> 総合公園や運動公園など大規模な区立公園が多く立地していることから、機能の多機能化を図る必要がある。 将来の人口構成を考慮した公園づくりを行う必要がある。
深川北部地区	下町風情が残るみどりと新たな芸術・文化が息づくまち	<ul style="list-style-type: none"> 3つの都立公園が立地しているが、区立公園は小規模の公園が多く、区立公園の合計面積としては、区内で最も小さい。一人当たりの公園面積は6.05㎡となっている。 親水公園が多く、水遊びのできる公園が複数整備されている。 地下鉄8号線の延伸(豊洲～住吉)計画が進められており、地下鉄8号線沿線まちづくりの検討が進められている。 身近な区立公園に求める役割として、「子育て・遊びの場」や「イベント」を求める住民が他地区と比較して多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 区民から日常的に利用されている都立公園が立地しており、これらの公園との連携を図りながら、区立公園の魅力を高めていく必要がある。 区立公園は小規模なものが多く、限られた面積での多機能化は難しいため、機能分担を図る必要がある。 地下鉄8号線の延伸など、今後のまちづくりを考慮した公園づくりを行う必要がある。
深川南部地区	伝統と未来が織り成すみどり豊かなまち	<ul style="list-style-type: none"> 5つの近隣公園が整備されているが、大規模な公園が整備されておらず、一人当たりの公園面積は1.75㎡と区内で最も小さい。 水遊びのできる公園が複数整備されている。 地下鉄8号線(の延伸(豊洲～住吉)計画が進められており、地下鉄8号線沿線まちづくりの検討が進められている。 身近な公園にボール遊びのできる環境を求める住民が、他地区と比較して多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な公園がないが、近隣公園が多く整備されていることから、機能の多機能化を図りつつ、小規模な公園では機能分担を図り、住民ニーズに応じていく必要がある。 地下鉄8号線の延伸など、今後のまちづくりを考慮した公園づくりを行う必要がある。
南部地区西	みどりをみんなで生み出し、育み・活かす、快適でにぎわいのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> 都立公園や海上公園、国営公園が多く立地している。一人当たりの公園面積は13.44㎡。 釣りや、バーベキュー、ドッグランなど休日のレクリエーションを楽しめる公園が多い。 地下鉄8号線(の延伸(豊洲～住吉)計画が進められており、地下鉄8号線沿線まちづくりの検討が進められている。 他地区と比較して身近な区立公園に多様な役割を求める住民が多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 都立公園や海上公園、国営公園が多く立地しており、これらの公園との連携を図りながら、区立公園の魅力を高めていく必要がある。 地下鉄8号線の延伸など、今後のまちづくりを考慮した公園づくりを行う必要がある。 区外からの利用者や外国人観光客の多い地区であることから、区の魅力を発信する場として活用していくことも求められる。
南部地区東		<ul style="list-style-type: none"> 2つの海上公園が立地している一方、区立公園は小規模の公園が多い。一人当たりの公園面積は10.12㎡となっている。 身近な公園にインクルーシブ遊具の整備を求める住民が他地区と比較して多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 区立公園は小規模なものが多く、限られた面積での多機能化は難しいため、機能分担を図る必要がある。
湾岸地区	東京湾を望む壮大なみどりを活かし、スポーツ・レクリエーションによる交流とにぎわいのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> 都立公園や海上公園が多く立地しており、区立公園も若洲公園(総合公園)など、大規模な公園が多く小規模な公園が少ない。一人当たりの公園面積は2121.06㎡と区内でも極めて大きい。 釣りやキャンプ、バーベキューなどレクリエーションを楽しめる公園が多い。 週に1回以上公園を利用している住民が、他地区と比較して多い傾向にある。 自然環境の豊かさや暑さ対策・遊具の充実度に不満があり、身近な公園に環境教育の場や乳幼児が安心して自然に触れられる場を求める住民が、他地区と比較して多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模な公園が少ないことから、機能の多機能化を図り、住民ニーズに応じていく必要がある。 地区の特性上、自然環境や暑さ対策などを図っていく必要がある。 区外からの利用者や外国人観光客の多い地区であることから、区の魅力を発信する場として活用していくことも求められる。
親水公園等	—	<ul style="list-style-type: none"> 親水公園では、それぞれの公園にテーマが設定されている。 野鳥が数多く生息しており、生物多様性の視点からも重要な役割を担っている公園が多い。 水遊びやスポーツなど、区民のレクリエーションの場としての役割を果たしている公園が多い。 散歩やペットの散歩、通行など、日常生活の中で多くの区民に利用されている。 水辺の公園でできると良いこととして、散歩や軽運動、水遊び、自然観察、飲食などをあげる区民が多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園のテーマを踏まえながら、区の特徴・魅力として、更なる個性の発揮や、発信を行っていく必要がある。 通行での利用がほとんどの公園については、公園に滞在してもらう工夫をはかる必要がある。 地区をまたがる特徴を活かし、多様な住民や団体との連携による整備や管理運営、活用を測っていく必要がある。

公園の現状と課題・公園づくりの考え方

（４）目指すべき公園のイメージ

<将来像イメージ>



「公園群」として 「使い方」 「活かし方」 「行きたくなる魅力」を整理

【公園別】
特徴的な公園づくりで魅力向上
親水空間、歴史資源、季節の花や
特徴的な景観など、区内でも有名
な特徴のある公園は資源性を活か
し魅力の維持・向上を図る

① にぎわいタイプ ② 地域の顔タイプ

【公園別】
街区公園の機能特化
街区公園などは無理に多くの機能
を持たせず機能特化型の改修に
よって地域内での機能分担を図る

③ 機能特化タイプ

【公園別】
近隣公園・地区公園の多機能化
敷地の大きさを活かして多機能化
を進めるとともに、地域内の多様
な利用を受け止める

② 地域の顔タイプ

【公園別】
都市基幹公園の広域利用
総合公園などの公園は、都立公
園・海上公園・国営公園との機能
分担に留意しながら区全域の広域
的な利用拠点として都市の魅力向
上や防災に資する機能を高める

① にぎわいタイプ

【地域】
地域毎に公園機能を充実
地域によって公園の機能に偏りが
ないように、広い公園への機能集
約化や狭い公園の機能分担によっ
て地域毎に多機能化を図る

【全体】
公園のグリーンインフラ機能の拡充
緑やオープンスペースが持つ多様な機能を活用し、防災・減災、気候変動対策、生物多様性保全、景観形成、健康増進などを通じて、持続可能で魅力的な都市づくりを進める

みんなで公園の魅力向上を実現
近隣住民、公園利用者、学校、各種団体、専門家、民間事業者、区等の関係者が協働して、公園の魅力向上や問題解決のアイデアを出し合い、その実現に協力して取り組む

柔軟な公園の活用イメージ

庁内連携による横断型のハード・ソフト両面での施策を展開することで、社会課題や区民ニーズに応える、柔軟な公園の活用を実現。

【活用イメージの例】

・ボール遊び

ハード ソフト

- 防球ネット整備
- 運動公園の平日開放
- 近隣学校との連携
- 利用ルール、運用の見直し
- プレーリーダー等の活用

・プレーパーク

ハード ソフト

- 常設型の整備
- 移動型の運用
- プレーリーダーの育成

・乳幼児の遊び・学びの場

ハード ソフト

- 幼児向け広場の整備
- 親子で過ごせる居場所づくり
- イベントの開催

・防災・減災

ハード ソフト

- 防災施設の整備
- レインガーデン整備
- サイン設置による普及啓発
- 防災訓練や防災イベントの開催

※活用イメージはあくまでも現時点の案であり、今後、関係部署や関係団体との連携・調整等により具体を検討。